

革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）平成29年度評価結果の概要

| 研究計画名 | 研究代表機関名 | 評価結果の概要 |
|--|--------------------|-------------------------------|
| 1. 水田作 | | |
| 統合課題「耐久性と汎用性が優れ機械コストが1／3以下になる機械とその利用法の開発」 | 石川県農林総合研究センター農業試験場 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| 耐久性と汎用性が優れ機械コストが1／3以下になる機械とその利用法の開発（建設機械の農業利用に向けた改良と低コスト利用体系の確立） | 石川県農林総合研究センター農業試験場 | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |
| 耐久性と汎用性が優れ機械コストが1／3以下になる機械とその利用法の開発（農業者が実施可能な小規模基盤整備等を活用した低コストで収益性の高い水田農業の実証） | 福井県農業試験場 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| 低コストで省力的な水管理を可能とする水田センサー等及び水管理の合理化システムの開発 | 株式会社インターネットイニシアティブ | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |
| 農業経営体とのサービスサイエンス型水管理作業分析に基づく水管理省力化システムの低廉化と社会実装へ向けた実証研究 | 農研機構農業技術革新工学研究センター | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| 草勢管理システムの研究開発 | 株式会社エムスクエア・ラボ | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| 自律移動ロボット技術を用いた半自走式草刈機の開発 | 産業技術総合研究所 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| 寒冷地北部における野菜導入とリモートセンシングの活用による大規模水田作経営体の収益向上技術の実証 | 農研機構東北農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| ドローンの高精度リモートセンシング技術の活用による乾田直播を基軸とした暖地水田輪作高収益化技術の開発と実証 | 農研機構九州沖縄農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| 統合課題「タマネギ等高収益作物の多収・安定化技術と情報技術の活用による高収益水田営農の確立」 | 農研機構東北農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| タマネギ等高収益作物の多収・安定化技術と情報技術の活用による高収益水田営農の確立（栽培・作業・情報技術の融合と高収益作物の導入による大規模水田営農基盤の強化） | 農研機構北海道農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| タマネギ等高収益作物の多収・安定化技術と情報技術の活用による高収益水田営農の確立（寒冷地の水田作経営収益向上のための春まきタマネギ等省力・多収・安定化技術の開発とその実証） | 農研機構東北農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |

| 研究計画名 | 研究代表機関名 | 評価結果の概要 |
|---|--------------------|-------------------------------|
| タマネギ等高収益作物の多収・安定化技術と情報技術の活用による高収益水田営農の確立（温暖地におけるICTを活用したタマネギ等の野菜作と畑作物を組み合わせた高収益水田営農の確立） | 農研機構中央農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| ICTを活用した加工・業務用葉ねぎの省力安定生産技術の開発 | 香川県農業試験場 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| 2. 畑作・地域作物 | | |
| 小麦なまぐさ黒穂病の効果的防除技術の開発 | 北海道立総合研究機構中央農業試験場 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| ビレットプランター等を活用した機械化省力さとうきび栽培体系の実証 | 農研機構九州沖縄農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| 既存の機械を活用したゴマの収穫・乾燥・調整作業の機械化 | 農研機構次世代作物開発研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| 高糖度かんしょの長期出荷に対応した栽培・貯蔵・品質評価技術の開発 | 農研機構九州沖縄農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |
| 寒地畑作を担う多様な経営体を支援する省力技術およびICTを活用した精密農業の実証 | 農研機構北海道農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| 機能性成分分析の高度迅速化による農産物における機能性表示食品商品化の加速 | 宮崎県総合農業試験場 | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| 九州地域をモデルとした茶の高付加価値化による需要拡大のための生産体系の実証 | 農研機構果樹茶業研究部門 | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |
| 3. 野菜・花き | | |
| 生物性を評価できる土壌分析・診断技術の開発および実証 | 立命館大学 | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| 産地間連携による青ネギ周年安定供給のための生産予測・出荷調整支援システムの開発 | 農研機構野菜花き研究部門 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。（標準） |
| パイプハウスで高収益を実現するICT利用型養液土耕制御システムの汎用化とその実証 | 株式会社ルートレック・ネットワークス | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |

| 研究計画名 | 研究代表機関名 | 評価結果の概要 |
|---|-----------------|-------------------------------|
| 作業管理システム及び生育予測を核とした大規模施設園芸発展スキームの構築 | 農研機構野菜花き研究部門 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| トマト低段密植栽培の環境制御による安定生産と、超低農薬栽培による高付加価値化の完成 | 鈴与商事株式会社 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 北海道における花粉交配用ミツバチの安定生産技術の開発 | 農研機構畜産研究部門 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 輸出のための球根類ネット栽培体系の確立・普及 | 富山県花卉球根農業協同組合 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| マツ盆栽等の輸出解禁・緩和に必要な病害虫防除方法の開発 | 香川県農業試験場 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 新規機能性成分によるナス高付加価値化のための機能性表示食品開発 | 信州大学 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 未成熟果実を用いた革新的鮮度保持技術の開発 | 千葉大学 | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| 追加公募 | | |
| 低コスト化・強靱化を実現する建設足場資材を利用した園芸用ハウスの開発 | 農研機構西日本農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 4. 果樹 | | |
| プラムポックスウイルスの検知、予防および治療法の開発 | 岡山大学 | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| 養水分制御を基盤とした樹体管理技術の確立による高品質カンキツ果実連年安定生産の実証 | 農研機構西日本農業研究センター | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| 各地域に適したリンゴ早期成園化技術の開発と経営体における実証 | 農研機構果樹茶業研究部門 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 国産リンゴ及び加工品の高付加価値化を促進する機能性表示食品の開発及び健康機能性成分の評価技術の開発 | 農研機構果樹茶業研究部門 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |

| 研究計画名 | 研究代表機関名 | 評価結果の概要 |
|--|-----------------|-------------------------------|
| 市田柿剥皮工程のための自動判別・高精度位置決めロボット開発 | 東京大学 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 5. 畜産 | | |
| 府県における自給飼料生産利用技術の開発と実証 | 農研機構畜産研究部門 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 道産トウモロコシの安定供給に基づく高付加価値畜産物生産技術の開発 | 農研機構北海道農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 肥育豚省力出荷システムの構築 | 宮崎大学 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 水田里山の畜産利用による中山間高収益営農モデルの開発 | 農研機構西日本農業研究センター | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 中山間地域の和牛放牧等を利用した耕畜複合による収益向上と、それを支える乳肉共用経営による総合的なシステムの構築(畜産振興による中山間地域維持活性化計画) | 鳥取県畜産農業協同組合 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| BODバイオセンサーを利用した豚舎排水の窒素除去システムの開発 | 農研機構畜産研究部門 | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |
| 国産スターターを用いたブランドチーズ製造技術の開発 | 農研機構畜産研究部門 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 牛慢性消耗性疾病の早期発見および防除技術の開発 | 農研機構動物衛生研究部門 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| 牛慢性感染症克服のための革新的ワクチン開発とその実証試験 | 理化学研究所 | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |
| 追加公募 | | |
| 動線解析技術を活用した分娩監視および健康管理システムの開発 | 北里大学獣医学部 | 当該年度の目標を達成し、予定した成果が得られた。(標準) |
| ICT・ロボット・AIを活用した放牧技術による生涯生産性向上を可能とする乳用牛の育成技術の開発 | 東京理科大学理工学部機械工学科 | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |

| 研究計画名 | 研究代表機関名 | 評価結果の概要 |
|-------------------------------------|-------------------|-------------------------------|
| 有人車両とロボット車両の協調作業による踏圧作業体系の省力化 | 帯広畜産大学畜産学部 | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| 6. 林業 | | |
| 国産材CLTの製造コストを1/2にするための技術開発 | 森林研究・整備機構森林総合研究所 | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |
| CLTを使った構造物の施工コストを他工法並みにする技術開発 | 東京農工大学 | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |
| 7. 水産業 | | |
| 地下海水を活用したギンザケの早期親魚養成・採卵技術と周年出荷技術の開発 | 一般社団法人マリノフォーラム21 | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| ICT技術による噴火湾養殖ホタテガイ生育状況モニター技術開発 | 北海道立総合研究機構函館水産試験場 | 当該年度の目標達成が不十分であり、一層の努力が必要である。 |
| 先端技術を活用した世界最高水準の下痢性貝毒監視体制の確立 | 水産研究・教育機構中央水産研究所 | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |
| 三陸産イサダを全利用した高付加価値素材の効率的生産体系構築 | 岩手生物工学研究センター | 当該年度の目標を達成し、良好な成果が得られた。 |